



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月6日

上場会社名 神奈川中央交通株式会社

上場取引所 東

コード番号 9081 URL <http://www.kanachu.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 三澤 憲一

問合せ先責任者 (役職名) 総務部長

(氏名) 向井 隆夫

TEL 0463-22-8800

四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	82,335	△1.6	5,719	0.2	5,466	1.7	3,650	1.6
25年3月期第3四半期	83,693	2.5	5,710	25.5	5,375	31.3	3,593	54.4

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 3,010百万円 (△35.6%) 25年3月期第3四半期 4,673百万円 (91.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	58.98	—
25年3月期第3四半期	58.07	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	137,951	40,350	26.9
25年3月期	139,091	37,655	24.9

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 37,135百万円 25年3月期 34,621百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
26年3月期	—	2.50	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	2.50	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	106,700	△3.8	5,270	△14.5	4,650	△17.7	3,030	△20.0	48.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)： 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期3Q	63,000,000 株	25年3月期	63,000,000 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年3月期3Q	1,115,321 株	25年3月期	1,111,242 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期3Q	61,886,152 株	25年3月期3Q	61,891,203 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(セグメント情報)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、先進国を中心に海外経済が回復しつつあることや円安により輸出が持ち直し傾向にあるとともに、各種政策の効果により企業収益が改善し設備投資や個人消費が増加するなど、緩やかに回復の動きが見られました。

このような状況のもと、当社グループ各社は、各部門において積極的な増収策を図るとともに、経費の節減ならびに経営全般の効率化に取り組んでまいりました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は823億3千5百万円（前年同期比1.6%減）、営業利益は57億1千9百万円（前年同期比0.2%増）、経常利益は54億6千6百万円（前年同期比1.7%増）、四半期純利益は36億5千万円（前年同期比1.6%増）となりました。

セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

(一般旅客自動車運送事業)

乗合業においては、交通空白地域の解消などに向けた取り組みとして中井町全域と隣接する秦野市・二宮町の一部地域でのデマンドバスに加え、10月には大和市の相模大塚地域においてコミュニティバスの実験運行を開始しました。また、プレジャーフォレスト（相模原市）・神奈川県立花菜（かな）ガーデン（平塚市）などの観光施設にアクセスする路線の増便や、平塚・相模原営業所管内において乗降方法を「中乗り・前降り」方式に変更し利便性の向上に努めました。さらに、ホームページの時刻表・運賃案内システムをスマートフォンからの検索に対応するなどリニューアルし、12月には全ての乗合車両に公衆無線LAN（Wi-Fi）を設置しインターネット環境の改善を図りました。また、善行駅～善行団地循環線、鶴川駅～山王ガーデン～野津田車庫線、深夜急行バスの東京駅・横浜駅～東戸塚駅・大船駅線の運行を開始するなど、新たなお客様の獲得を図ったことにより増収となりました。

貸切業においては、旅行会社などへ積極的な営業活動に努めたことにより新規取引先を獲得するとともに、「富士山ぐるり五湖めぐり」や「富士山名所めぐりツアー」などの日帰り旅行を企画し販売したことにより増収となりました。

乗用業においては、羽田空港への定額運賃サービスの利用が増加しました。また、神奈中タクシーグループによる共同配車を横浜市戸塚地区に導入し利便性の向上を図るとともに、お客様感謝キャンペーンを実施いたしました。さらに、10月には二宮町の富士見が丘・松根地区などでデマンド型乗合タクシー、12月には茅ヶ崎市の小出地区でデマンドバスの実験運行を開始しましたが、需要の低迷により減収となりました。

以上の結果、一般旅客自動車運送事業全体の売上高は445億9千9百万円（前年同期比0.4%増）となりましたが、燃料費の増加などにより営業利益は24億3千7百万円（前年同期比9.2%減）となりました。

(不動産事業)

分譲業においては、平塚市めぐみが丘にて3棟の建売分譲および1区画の宅地分譲を行うとともに、茨城県鹿嶋用地を販売したことにより増収となりました。また、賃貸業においては、横浜駅の徒歩圏にあるビルを建替え3月より賃貸を開始した「高島町賃貸マンション」が通期寄与したことなどにより増収となりました。

以上の結果、不動産事業全体の売上高は36億3千3百万円（前年同期比9.7%増）、営業利益は18億5千9百万円（前年同期比15.8%増）となりました。

(自動車販売事業)

自動車販売事業においては、商用車販売にて既存のお客様に対する営業活動を強化したことなどにより車両整備が増加しました。また、東日本大震災後の買い控えからの反動により観光バスの販売が好調に推移するとともに、復興需要によるトラック販売も好調に推移しました。さらに、輸入車販売ではモデルチェンジの効果に加え、ショッピングモールでの出張展示会を実施したことなどにより増収となりました。

以上の結果、自動車販売事業全体の売上高は175億7千7百万円（前年同期比12.9%増）、営業利益は4億2千9百万円（前年同期比15.8%増）となりました。

(レジャー・スポーツ事業)

スポーツ施設業においては、初心者向けスイミング教室の開催やテニス教室のジュニアクラス増設などにより会員数は増加しましたが、フィットネスクラブの入会金の減少などにより減収となりました。

ゴルフ場業においては、オープンコンペを開催するなど新たなお客様の獲得に努めたことが、近隣ゴルフ場との低価格競争によりお客様が減少し減収となりました。

温浴業においては、メールマガジンによるクーポンの配布や夏季期間における子供料金の割引に加え、11月から「湯快爽快くりひら店」と京王相模原線若葉台駅を結ぶ無料送迎バスの運行を開始するなどの営業活動により増収となりました。

なお、遊技場業はグループ外部の承継会社に7月1日を効力発生日とする会社分割（簡易吸収分割）を行いました。

以上の結果、レジャー・スポーツ事業全体の売上高は37億4千8百万円（前年同期比47.2%減）、営業利益は2億3千2百万円（前年同期比39.5%減）となりました。

（その他の事業）

流通業においては、燃料販売単価の上昇に加え、法人営業の強化により取扱量が増加するとともに、サイン工事の新規受注などにより増収となりました。

飲食・娯楽業においては、8店目となる「ドトールコーヒーショップ東日本橋店」を新規出店するとともに、「らーめん花樂相模原アイワールド店」および「はなまるうどん横浜港南中央店」をリニューアルしお客様満足度の向上に努めました。また、12月から「らーめん花樂」にて地域店舗ごとにソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を活用して新商品情報やクーポンを配信するサービスを開始しましたが、前年度における不採算店舗の閉店などにより減収となりました。

ホテル業においては、宿泊部門にてニーズを捉えた各種宿泊プランを設定し稼働率の向上を図るとともに、料飲・宴会部門ではディナーショーを開催したほか、企業・団体に対し積極的な営業活動を行ったことにより増収となりました。

以上の結果、その他の事業全体の売上高は205億6千4百万円（前年同期比2.0%減）、営業利益は8億4百万円（前年同期比5.2%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

①財政状態の変動状況

総資産は、投資有価証券の時価評価額が減少したことや、減価償却などにより、前期末に比べて11億3千9百万円減少し、1,379億5千1百万円となりました。

負債は、賞与引当金が減少したことや、借入金返済が進んだことなどにより、前期末に比べて38億3千4百万円減少し、976億1百万円となりました。

また、純資産は、その他有価証券評価差額金が減少しましたが、利益剰余金が増加したことなどにより、前期末に比べて26億9千4百万円増加し、403億5千万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期通期連結業績予想につきましては、概ね計画通りに推移していることから、現時点において平成25年4月26日発表の数値から修正しておりません。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,706	2,923
受取手形及び売掛金	7,008	7,471
商品及び製品	3,939	3,847
仕掛品	2	14
原材料及び貯蔵品	431	459
その他	3,015	2,566
貸倒引当金	△56	△67
流動資産合計	17,047	17,215
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	75,397	76,289
車両運搬具	36,939	37,439
土地	60,642	60,917
その他	14,695	14,404
減価償却累計額	△86,908	△88,104
有形固定資産合計	100,765	100,946
無形固定資産	968	862
投資その他の資産		
投資有価証券	17,034	15,727
その他	3,295	3,220
貸倒引当金	△19	△20
投資その他の資産合計	20,310	18,926
固定資産合計	122,044	120,735
資産合計	139,091	137,951
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,183	5,698
短期借入金	24,176	23,433
未払法人税等	1,733	444
賞与引当金	2,107	806
その他	10,754	12,563
流動負債合計	44,955	42,947
固定負債		
長期借入金	33,094	31,697
退職給付引当金	5,522	5,218
役員退職慰労引当金	50	46
その他	17,812	17,692
固定負債合計	56,479	54,654
負債合計	101,435	97,601

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,160	3,160
資本剰余金	693	693
利益剰余金	26,474	29,815
自己株式	△590	△592
株主資本合計	29,737	33,076
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,792	3,945
繰延ヘッジ損益	91	113
その他の包括利益累計額合計	4,883	4,059
少数株主持分	3,034	3,215
純資産合計	37,655	40,350
負債純資産合計	139,091	137,951

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高		
一般旅客自動車運送事業営業収益	44,246	44,417
不動産事業売上高	3,298	3,619
その他の事業売上高	36,149	34,298
売上高合計	83,693	82,335
売上原価		
一般旅客自動車運送事業運送費	37,532	37,912
不動産事業売上原価	1,188	1,253
その他の事業売上原価	28,431	26,877
売上原価合計	67,153	66,043
売上総利益	16,540	16,292
販売費及び一般管理費		
販売費	7,086	6,849
一般管理費	3,743	3,722
販売費及び一般管理費合計	10,829	10,572
営業利益	5,710	5,719
営業外収益		
受取配当金	188	196
その他	217	163
営業外収益合計	406	360
営業外費用		
支払利息	647	551
その他	94	62
営業外費用合計	741	613
経常利益	5,375	5,466
特別利益		
固定資産売却益	294	116
補助金収入	87	116
事業譲渡益	—	520
その他	799	56
特別利益合計	1,181	810
特別損失		
固定資産圧縮損	83	112
固定資産除却損	141	51
早期割増退職金	—	59
その他	269	40
特別損失合計	494	264
税金等調整前四半期純利益	6,062	6,012
法人税、住民税及び事業税	1,369	1,335
法人税等調整額	892	849
法人税等合計	2,262	2,185
少数株主損益調整前四半期純利益	3,800	3,827
少数株主利益	206	176
四半期純利益	3,593	3,650

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,800	3,827
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	870	△838
繰延ヘッジ損益	2	22
その他の包括利益合計	872	△816
四半期包括利益	4,673	3,010
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,462	2,825
少数株主に係る四半期包括利益	210	185

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	一般旅客 自動車 運送事業	不動産事業	自動車 販売事業	レジャー・ スポーツ 事業	その他の 事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高								
外部顧客への売上高	44,246	3,298	14,601	7,043	14,503	83,693	—	83,693
セグメント間の内部 売上高又は振替高	182	13	971	50	6,475	7,693	△7,693	—
計	44,428	3,311	15,573	7,094	20,979	91,387	△7,693	83,693
セグメント利益	2,683	1,605	370	383	764	5,808	△97	5,710

(注) 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、流通業、飲食・娯楽業、ホテル業等を含んでおります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	一般旅客 自動車 運送事業	不動産事業	自動車 販売事業	レジャー・ スポーツ 事業	その他の 事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高								
外部顧客への売上高	44,417	3,619	16,241	3,711	14,345	82,335	—	82,335
セグメント間の内部 売上高又は振替高	181	14	1,336	37	6,218	7,787	△7,787	—
計	44,599	3,633	17,577	3,748	20,564	90,123	△7,787	82,335
セグメント利益	2,437	1,859	429	232	804	5,763	△43	5,719

(注) 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、流通業、飲食・娯楽業、ホテル業等を含んでおります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。